

平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）概要
日時：平成25年5月20日（月） 午前10時から正午まで
場所：千葉県教育会館 608号室（6階）

[委員等]

宮内好雄委員長，石井信代副委員長，鈴木宏子委員，尾崎由紀子委員，高岡正幸委員
森谷英一委員，小西則子委員，石川善昭委員，大木茂委員，関紀子委員，岡根茂委員
佐久間勝彦委員，田鎖美穂委員，齋藤一浩委員，川崎宏薫委員，中村美彦委員

教育次長，指導課長，教育政策課長，教職員課長，教育振興部副参事兼指導課学力向上室長

- 1 開会のことば
- 2 県教育委員会あいさつ
- 3 委員の紹介
- 4 設置要綱の一部改正について
- 5 委員長，副委員長の選出
- 6 報告
 - (1) 平成25年度公立高等学校入学者選抜の結果について
 - (2) 平成25年度入学者選抜における中学校及び高等学校からの意見について
 - (3) 千葉県公立高等学校入学者選抜制度のアンケート結果について
 - (4) その他
- 7 協議
 - (1) 平成26年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について
 - (2) その他
- 8 閉会のことば

【質疑・協議結果】

平成26年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について，協議を行った。
主な意見等は次のとおりである。

- ・私立高校の受検を含めれば，公立高校の受検とあわせて複数回の選抜機会を保証していることになるので，1回の選抜で募集定員の全てについて入学許可候補者を決定する方がよい。
- ・後期選抜は1日で実施しているため，第2次募集のように受け取られているので，2日間で実施すること等を意識し検討してほしい。
- ・選抜制度を変更するのであれば，十分な周知期間を取った方がよい。最低でも2年半は必要である。
- ・仮に選抜制度に変更がある場合に，その周知期間を更に2年半取るのは改革が遅いと考える。
- ・定時制の課程の願書等の受付時間は，社会人の方の出願や職員の勤務時間を考慮し，午後からにしてほしい。
- ・アンケートは，中学3年生徒・保護者，高校1年保護者に対しては悉皆調査ではないので，その意見については慎重に検討するべきである。
- ・丁寧に試験を行うには，2回実施がいいと考える。
- ・郡部では，一本化がよいという意見が多い。千葉県内でも地域差があるのではないか。
- ・アンケート調査は，毎年継続して実施するべきではないか。
- ・2回の選抜制度を継続する上で，アンケート等の意見をきちんと分析して進めてほしい。
- ・無理やり制度を変えるのはおかしい。問題がなければ変える必要はない。
- ・選抜制度について，埼玉県・茨城県等一本化している他県の状況を参考としながら慎重に検証をしてほしい。

平成26年度以降の入学者選抜の在り方については，次回以降の協議会でも継続して協議する。

なお，「7 協議」「(2) その他」において，専門部会の設置及び専門部会委員が決定された。

平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）概要

日時：平成25年7月29日（月） 午前10時から正午まで

場所：千葉市ビジネス支援センター（きぼーる） 13階 会議室1

〔委員等〕

石井信代委員長，田中庸恵副委員長 尾崎由紀子委員，大久保利宏委員（高岡正幸委員代理）
森谷英一委員，小西則子委員，石川善昭委員，松岡和美委員（大木茂委員代理）
関紀子委員，佐久間勝彦委員，田鎖美穂委員，齋藤一浩委員，川崎宏薫委員，中村美彦委員

教育次長，指導課長，教育政策課長，教育振興部副参事兼指導課学力向上室長

- 1 開会のことば
- 2 県教育委員会あいさつ
- 3 補欠委員について
- 4 報告
 - (1) 平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）の概要について
 - (2) 平成25年度公立高等学校入学者選抜における学習成績分布表等の公表について
 - (3) 平成25年度公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について
 - (4) 平成26年度千葉県県立高等学校第1学年入学者選抜要項について
 - (5) 平成26年度千葉県公立高等学校「前期選抜」，「後期選抜」等の検査の内容・出題方針について
 - (6) 専門部会（第1回）について
 - (7) その他
- 5 協議
 - (1) 平成26年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について
 - (2) その他
- 6 閉会のことば

【質疑・協議結果】

平成26年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について，協議を行った。

主な意見等は次のとおりである。

- ・ 県教委は前期選抜・後期選抜それぞれの趣旨の違いを，また，高等学校は自校の特色を，更に周知徹底していくべきではないか。
- ・ 前期選抜と後期選抜の趣旨の違いについては，学校がPRの努力をすべきである。
- ・ アンケート結果について，課題を把握したうえで，それらを改善できる余地があるかについて分析するべきである。現在の前後期制を改善できるなら，現行制度のままでもよいという意見もあるのではないかと。
- ・ アンケート結果での生徒・保護者の意見を踏まえつつ，中学校長・高等学校長の意見も十分検討していくべきである。
- ・ 保護者の気持ちを十分考慮しながら，現場の教員や実際に事務を処理する人間の気持ちを考え，十分な議論が必要である。
- ・ 学校側が反対している理由が理解できない。反対する理由を見えるようにしてほしい。
- ・ 概ね議論は尽くされているのではないかと。協議会としては論点整理をした上で，教育委員会に投げて判断してもらおう時期にきているのではないかと。
- ・ 細かい一つ一つの課題を浮き彫りにし，変えていくべきところは変えていく方向を出していくことが我々に求められている。
- ・ 前期後期ともに学力検査が導入されたため，中学校の生徒・保護者からは，同じ検査を前後期2回に分けて実施していると捉えられていることがある。
- ・ 前後期で同じ高校を受検するということはかなり多く，それで救われる子どもが多いと思うので，考慮していただきたい。
- ・ どのような一本化をするのかという議論をしてほしい。
- ・ 平成27年度以降は大きく変えるということについて，様々な意見を集約し，整理して県民に伝えていくべきである。
- ・ 中学校・高等学校それぞれの入試業務がどのようなものであるのか，お互いに把握することは大事なことである。
- ・ 郡部と都市部での学区内の高等学校数や交通事情等，地域差を踏まえた検討をしていくことが必要である。

平成26年度以降の入学者選抜の在り方については，次回以降の協議会でも継続して協議する。

平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第3回）概要

日時：平成25年10月22日（火） 午前9時30分から午前11時30分まで

場所：千葉県教育会館 608号室（本館6階）

〔委員等〕

石井信代委員長，田中庸恵副委員長，鈴木宏子委員，尾崎由紀子委員，高岡正幸委員，森谷英一委員，小西則子委員，太田公昭委員（石川善昭委員代理），大木茂委員，関紀子委員，佐久間勝彦委員，齋藤一浩委員，川崎宏薫委員，中村美彦委員

教育振興部長，教育政策課長，指導課長，教職員課長，教育振興部副参事兼指導課学力向上室長

1 開会のことば

2 県教育委員会挨拶

3 報告

（1）平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）の概要について

（2）平成26年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項について

（3）平成26年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法（予定）の公表について

（4）専門部会の報告について

4 協議

（1）平成27年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

（2）今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

5 閉会のことば

【質疑・協議結果】

（1）平成27年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について，協議を行った。

主な意見等は次のとおりである。

- ・選抜日程は，私立高等学校や国立高等学校とも，可能な限り調整し作成してほしい。

（2）今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について，協議を行った。

主な意見等は次のとおりである。

- ・選抜の実施時期について，その日程調整に苦勞すること一つをとってみても，現行の2回の選抜に問題があるので，ぜひ一本化してほしい。
- ・まず先に，現行制度の課題となっている点の改善にすぐに取り組んでほしい。
- ・一回の選抜であれば一回で合格できたはずが，わざわざ二回受けさせられている生徒が多いのではないか。
- ・前期選抜において不合格であった受検生のうち，後期選抜においても同一高等学校・学科を受検した者と別の高等学校を受検した者の数とを比較し検討する必要がある。
- ・現行の選抜制度で入学した生徒が卒業する時に，卒業生や高等学校にアンケートを実施し，選抜制度について確認することが，制度を検討する最もよい方法である。
- ・生徒・保護者にとっては，前期選抜で体調不良により力を出せなくても，もう一度あらためて受検できるという安心感を持つことができるので，2回の選抜を行うことは必要であるというアンケート結果になったことは十分理解できる。
- ・2回の選抜があることで，選抜に係る期間が長く，中学校・高等学校においては提出書類の作成・評価等，選抜事務が大変である点は十分考えなければいけない。
- ・現行制度における課題を改善できれば，前後期制もよいと考える中学校長もいるので，更に議論を詰めていくべきである。
- ・2回の選抜があることにより，生徒は，前期選抜では不合格でも後期選抜を受検できるという安心感が持てることを考えて，現行制度がよいとしている中学校長もいる。
- ・アンケート調査の生徒・保護者が，選抜が2度あることで，安心できると回答していることは，尊重すべきである。
- ・例えば，志願理由書を廃止する等，運用方法を簡素化するという改善ができるならば，現行の制度でよいのではないか。
- ・大学入試において，高校在学中に複数回試験を受けることができる選抜制度を実施する方針が出されたので，高校の選抜においても，それを踏まえて検討してほしい。
- ・選抜制度の理念がどのように変わるのかを県民にわかりやすく説明することが必要である。

なお，平成27年度の千葉県公立高等学校入学者選抜日程及び今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方については，次回の協議会でも継続して協議する。

平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第4回）概要
日時：平成25年11月21日（木） 午前10時から午前11時30分まで
場所：千葉市ビジネス支援センター 会議室1（13階）

[委員等]

石井信代委員長，田中庸恵副委員長，尾崎由紀子委員，高岡正幸委員，森谷英一委員
小西則子委員，石川善昭委員，大木茂委員，関紀子委員，岡根茂委員，佐久間勝彦委員
田鎖美穂委員，齋藤一浩委員，川崎宏薫委員，中村美彦委員

教育次長，教育政策課長，指導課長，教職員課長，教育振興部副参事兼指導課学力向上室長

- 1 開会のことば
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 報告

(1) 平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第3回）の概要について

4 協議

- (1) 平成27年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について
- (2) 今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

5 閉会のことば

【質疑・協議結果】

(1) 平成27年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について，協議を行った。

(2) 今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について，協議を行った。

主な意見等は次のとおりである。

- ・ 現行の選抜制度のもとで入学した生徒が卒業するときにアンケート調査を行い，その結果をもう一度検討すべきである。
- ・ 事務局は，他県の選抜制度の変更の状況について，適宜協議会に情報提供してほしい。
- ・ 一本化に踏み切った県については，都市部や地方の背景も参考にすべきである。
- ・ 公私が協調して学校教育の機会をどう保障するのか，そのためにどのような選抜をするのかを基本において議論すべきである。
- ・ 他県の動向等を精査しながら，時間をかけて検討し，数年先にはこうするという方向性を出してほしい。
- ・ 提出書類の在り方や選抜枠，テストの時間等，具体的な運用方法について改善できるものは早急に改善してほしい。
- ・ 一本化を想定した検討では，生徒・保護者が現行制度において感じている安心感を持てるようにすることが必要である。
- ・ 今後の制度の在り方を検討する上で，生徒にとってより良い選抜制度にすることを大事にした協議を忘れてはならない。
- ・ 前期に引き続き後期を受けた生徒のどの位が合格したか等も含め，来年は全校で前期選抜不合格者の同一学校・学科への再受検率を調査してほしい。
- ・ 今の制度は定員のところに問題がある。
- ・ 本県ならではの多様性や努力した生徒を評価することを勘案し，今後の制度について議論してほしい。
- ・ 高校で受検業務をしていて，生徒も学校も大変なので一本化がいいと思っていたが，保護者や生徒はそう思っていないことがアンケートではっきりした。
- ・ 選抜制度を検討する際には，県立学校改革推進プランとの関連も考慮すべきである。
- ・ 中学校としては志願理由書や定員枠などを早急に改善してほしい。
- ・ 現時点では，アンケート結果にある生徒・保護者の思いに軸足を置いて協議すべきである。
- ・ 日程等も含め，子どもたちに負担をかけないということを大前提にすべきである。

なお，本協議会での協議を踏まえ，平成27年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程について，事務局で作成した案を12月開催の千葉県教育委員会会議で議案として提案し，審議・決定後，公表することについて合意された。

平成 25 年 10 月 22 日

平成 25 年度千葉県公立高等学校
入学者選抜方法等改善協議会
委員長 石井 信代 様

平成 25 年度千葉県公立高等学校
入学者選抜方法等改善協議会専門部会
主 査 森 谷 英 一

千葉県公立高等学校入学者選抜制度のアンケート結果の分析について（報告）

このことについて、別添のとおり報告します。

平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会報告

1 経緯

本専門部会は、平成25年5月20日に、平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会から、千葉県公立高等学校入学者選抜のアンケートの結果について、専門的な分析を付託された。

2 委員

森谷 英一主査，増澤 保明副主査，森 秀夫委員，小川 好信委員
岩波 浩之委員，吉田 雅一委員，松村 智明委員，小安 由男委員
増子 雅代委員，根本 巖委員

3 開催日時

- (1) 第1回 平成25年7月 2日（火）午後1時30分から午後4時30分まで
- (2) 第2回 平成25年8月 7日（水）午後1時30分から午後4時30分まで
- (3) 第3回 平成25年9月 5日（木）午前9時30分から午後4時30分まで
- (4) 第4回 平成25年9月20日（金）午後1時30分から午後4時30分まで

4 会場

- (1) 第1～3回 千葉県教育会館
- (2) 第4回 千葉県教育庁企画管理部会議室

5 調査研究内容

アンケート結果の各項目について、分析及び検証を行い、現行の入学者選抜制度の課題やその改善策について協議した。

第1回及び第2回で、主にアンケート結果の分析を行い、第3回及び第4回では、その分析結果をもとに、現行制度の改善策を協議するとともに、仮に選抜を一本化した場合をシミュレーションすることで、更に詳細な検証を行った。

別紙のとおりその内容を報告する。

専 門 部 会 報 告 書

1 現行の選抜制度について

(1) 制度のメリット

- ア 受検機会が2回あると、志願できる高校の幅が広がり、生徒が自分の進学したい学校を主体的に選択することができる。
- イ 高校は、前期・後期と、選抜ごとに異なる選抜・評価方法で、生徒を多面的に評価し選抜を行うことができる。
- ウ 早く進路先を決定したい受検生・保護者にとって、前期選抜が、2月中旬に検査を実施し、2月下旬に合格発表をすることはよい。
- エ 入学者選抜は、インフルエンザ等体調管理が難しい時期に実施されるので、受検機会が2回あることはよい。
- オ 経済的な事情等で、公立高校のみを志願する中学生にとっては、受検機会が2回あることはよい。

(2) 課題及び改善策等

	現状	課題等	改善策等
ア 実施の時期	<ul style="list-style-type: none"> 前期選抜は2月中旬に、後期選抜は2月末日又は3月始めに検査を実施している。前期の結果発表と後期の出願日との間は1日あいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期の結果の発表から、後期出願までの期間が短く、中学校での指導に余裕がない。 前期が不合格の生徒は、後期に気持ちを切り替えることが難しい場合もある。 選抜業務が長期にわたるので、授業時数の確保が難しい等、学校の教育活動に支障が出ることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期の検査を現行より1日程度前に実施することで、前期選抜発表と後期選抜出願の間を2日間程度あける。 提出書類等を減らす等選抜業務が簡素化できるよう、検討する。
イ 予定人員 (選抜枠)	<ul style="list-style-type: none"> 前期選抜の選抜枠は、普通科は募集定員の30～60%、専門学科は50～80%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①前期と比較し、後期の選抜枠が小さいため、後期が第2次募集のように捉えられている。 ②専門学科では、前期で内定しなかった生徒のほとんどが、後期でも同じ高校を受検している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①前期・後期ともに選抜枠を50%とする。 ②前期では普通科を受検し、後期では専門学科を受検する生徒もいるので、現状維持でよい。 ③専門学科の前期選抜枠を、高校によっては、100%までとする。
ウ 検査の時間 及び内容	<ul style="list-style-type: none"> 前期後期ともに5教科の学力検査を行い、実施時間については、各教科前期は50分、後期は40分で実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 後期選抜は、前期選抜よりも学力検査の時間が短いので、第2次募集のように捉えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力検査を、前期後期とも、同じ時間で実施する。

エ 期待する生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 各高校が求める生徒像を示したものである。受検者の志願を制約するものではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自校の特色が具体的になく、生徒・保護者に伝わりにくい高校が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 期待する生徒像を、より具体的でわかりやすいものにする。 期待する生徒像を廃止する。
オ 志願理由書	<ul style="list-style-type: none"> 志願の理由及び自己アピールについて、志願者の直筆で記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①中学校では、多くの時間をかけ、指導している。 ②選抜の資料として、どのように使われているかが、よく分からない高校がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ②高校の選抜・評価方法を更に具体的にし、志願理由書の評価方法をわかりやすくする。 ②志願理由書を廃止する。
カ 算式	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の評定合計平均値にばらつきがなくなってきたおり、成果が出ている。 公平性が保たれているので、選抜の資料として適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 評定合計平均値が、標準値より高い中学校の生徒・保護者にとっては、算式を使うことにより、評定の合計値が下がり、不利益と思われることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 標準値（95）について、再検討する。 算式の在り方について、検討する。 現状のままでよい。
キ 入学確約書	<ul style="list-style-type: none"> 入学許可候補者に内定した者は、入学確約書を在籍する中学校の校長を経由して、選抜の結果の発表の時からその翌日の正午までに、志願した高等学校の校長に提出する。指定された日時までに提出がない場合は、入学の意思がないものとして扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①中学校長の職印を押印して提出期限内に高校に提出するには、期間が短い。 ②提出を不要とし、別の方法で入学の意思を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①中学校長の職印の必要性を検討する。 ②中学生や保護者が、入学確約書を提出した高校に必ず入学するという確認をするためにも存続させる。 ②入学確約書を廃止する。 ②入学確約書の内容を、他の提出書類で確認することができるようにする。
ク 選抜・評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 前期選抜は2日間で実施し、第1日に5教科の学力検査、第2日に面接、作文等から1つ以上の検査を行い、学校の特色に応じ、生徒の多様な能力・適性等を多面的に評価している。 後期選抜は1日で実施し、5教科の学力検査の後、学校によっては、面接等を行い、県下ほぼ同一の方法で選抜している。 学力検査、調査書、学校が定めた検査で評価する項目及び評価の基準と、選抜の具体的な手順や総合的な判定の方法をまとめ、選抜・評価方法として、各高校はホームページ等で公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に前期選抜において、各高校が、どのような選抜・評価方法で選抜しているかが十分に理解されていない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 選抜・評価方法をより具体的なものにするるとともに、透明性を更に高める。 生徒・保護者等への周知の方法について、再検討する。

ケ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・前期選抜は特色ある入学者選抜の理念を引き継いだ選抜を行い、後期選抜は県下ほぼ同一の方法で選抜している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①前期選抜・後期選抜の趣旨や違いが周知徹底されていない。 ②選抜の名称から、同じ内容の選抜が前後期に分けて二度あると捉えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①あらゆる機会を捉え、周知徹底を更に図るとともに、高校では選抜・評価方法を更に具体的にする。 ②選抜の名称を変更する。
-------	--	---	--

2 選抜の一本化を想定した場合について

(1) メリット

ア 選抜業務に係る期間を短くすることができ、中学校・高等学校の授業時数の確保につながる。
 イ 2回の選抜に比べ、不合格を経験する生徒が減少する。

(2) メリット・課題等

	意見	メリット等	課題等
ア 実施の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査：2月中旬 発表：検査1週間後 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月に行われる卒業式等の学校行事に余裕を持って臨める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2月中旬の実施では、中学校の授業時数確保につながらない。 ・ 中学校では、進路先の決定した生徒が卒業式までの授業に集中できないことが考えられる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査：2月下旬 発表：検査1週間後 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2月以降の授業時数を今以上に確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路先を早く決めたい生徒にとっては、2月下旬の検査は遅い。 ・ 検査日によっては、3月に行われる学校行事に影響が出る可能性がある。
イ 検査の日数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日 ・ 2日間 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査や選抜業務に係る日数が減るので、授業時数を確保することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日での実施は、生徒の能力を多面的に評価することは難しい。
ウ 検査の内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 5教科の学力検査及び各学校が定める検査を実施する。 ② 5教科の学力検査のみ実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力検査及び面接、作文等から1つ以上の検査を実施し、各学校の特色に応じ、生徒の多様な能力・適性等を多面的に評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ② 5教科の学力検査のみでは、生徒の能力を多面的に評価することが難しい。

エ 期待する生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての高校に必要である。 ・不要である。 ・期待する生徒像を示すかどうかを学校が選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受検生が、その高校の求める生徒像を理解した上で、志願できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期待する生徒像を示さない場合、その高校が求めているものを、端的に把握することが難しくなる。
オ 志願理由書	<ul style="list-style-type: none"> ・不要である。 ・志願者に提出を求めるとどうかを学校が選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、志願理由書をとおして、自己をみつめ、自分の進路を考えさせる指導ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、指導に多くの時間が必要である。 ・選抜の資料として、どのように使われるのか明確にする必要がある。
カ 選抜・評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ①現行の前期選抜と同様の選抜・評価方法で選抜する。 ②学力検査の結果と調査書のみを資料とし、選抜を行う。 ③全ての資料を点数化し、選抜を行う。 ④複数の選抜・評価方法で選抜を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①複数の選抜・評価方法を用いることで、学力だけでなく、生徒を多面的に評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ②後期選抜と同じ選抜・評価方法にすると、各校の特色に応じた選抜が難しくなる。 ③④複数の選抜・評価方法を導入すると、選抜が複雑になるので、資料を点数化する等具体的に、選抜・評価方法の透明化を更に進める。
キ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の選抜となるので、不合格となった生徒は、第2次募集を実施する学校・学科を志願することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選抜で不合格を経験する生徒が減少する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の進路指導が安全志向になり、中学生の主体的な進路選択が難しくなると思われる。 ・経済的な事情等で、公立高校のみを志願する生徒にとっては、進学できるかの不安が現状より増すことになる。

3 その他

- ア 学区内の学校数や交通の便等、地域により差があることを考慮すべきである。
- イ 中学校と高等学校のそれぞれの入試業務がどのようなものであるかをより深く理解したうえで、選抜制度を検討すべきである。
- ウ 私学との意見調整が必要である。

今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法の在り方についての検討状況

1 現行の入学者選抜制度の検証について

(1) 平成23・24年度協議会の主な意見について

ア 選抜の日程について

(ア) 選抜の日程については、中学校及び高等学校の状況を踏まえて決定してほしい。

(イ) 前期選抜の検査が2月中旬に実施されることにより、中学校では3学期の授業時数を確保することができている。

(ウ) 前期選抜の発表日と後期選抜の出願開始日の間を、少なくとも1日はあけてほしい。

(エ) 日程的にきついことは確かだが、生徒の学習活動に影響したことはない。

イ 選抜制度の在り方について

(ア) 受検機会が複数回あることで受検生や保護者は安心できるが、様々な角度から慎重に検証してほしい。

(イ) 選抜制度を変更するとしても、高等学校が特色ある学校づくりをすることができる特色ある入学者選抜の理念を残すことができるようなものがよい。

(ウ) 現行の選抜制度を検討した時の課題は、中学校の3学期の学習環境をどう整えるかということであったことを、承知しておいてほしい。

(エ) 前期選抜における選抜枠を、後期選抜と同じ50%とするなど、改善できないか。

(オ) 前期選抜・後期選抜に学力検査を導入したことで、生徒・保護者や学校も勉強の大切さを感じるようになった。

(カ) 中学校によっては、前期選抜が終了した段階で、多くの生徒の進路先が決まっており、生徒指導に困難な面がある。

(キ) 経済的な事情等により、公立高等学校のみを志願する生徒にとっては、現行の制度はよい。

(ク) 選抜を1回にすることを視野に入れることも必要ではないか。

ウ 現行制度の検証について

(ア) 平成25年度選抜で現行の制度を3回経験することになる。県教育委員会のアンケートは大きな意味があり、参考にしていく必要がある。

(イ) アンケートについては、対象を精査し、その結果を迅速に反映して、選抜制度を改善してほしい。

(2) アンケート調査の実施

平成23年度選抜から「前期選抜」「後期選抜」の制度を導入し、平成25年度で3回目の実施となったことから、制度の検証を行うため、アンケート調査を実施した。

調査対象は、県内すべての公立中学校長・公立高等学校長・私立高等学校長、公立中学校3年生徒各校3名、公立の中学校3年及び高等学校1年PTA関係者各校3名とした。

(3) アンケート結果の概要

- ア 回答率は極めて高い。
- イ 中学校長の約6割、高等学校長の約9割は、授業時数の更なる確保等のため、選抜の一本化を希望しているが、受検生やその保護者の約7割は、生徒が自分の進学したい高等学校を主体的に選択することができる等の理由で、現行の2回の選抜が望ましいと考えている割合が高い。
- ウ 中学校長、高等学校長の多くは、特色ある入学者選抜の理念は継承すべきと考えている。一方で、前期選抜と後期選抜の違いや趣旨の周知が十分とは言えないと感じている。
- エ 特に公立高等学校長は、前期・後期と選抜が続くことで教育活動に支障が生じていると感じている。
- オ 中学校長の多くは、前期選抜を2月中旬に実施しても、中学校の授業にゆとりが生じたとは感じていない。
- カ 中学校長・高等学校長ともに、前期選抜に学力検査を入れたことは、学習や学力に対する意識の向上に少なからず貢献していると考えている。
- キ 現行の選抜制度が望ましいと考える学校長の割合は少ないが、その中でも選抜の実施時期や提出書類等、運用方法については支持する回答が多数を占めている。
- ク 仮に選抜を一本化した場合、その実施時期について、多くの中学校長・公立高校長は2月下旬を希望しているが、受検生やその保護者の多くは2月中旬がよいと考えている。

2 平成25年度の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会の協議内容について

(1) 協議の概要

- ア 第1回協議会（平成25年5月20日）
 - (ア) 平成26年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について
 - (イ) 専門部会の設置について
- イ 第2回協議会（平成25年7月29日）
 - (ア) 平成26年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について
 - (イ) 第1回専門部会における協議内容の報告について
- ウ 第3回協議会（平成25年10月22日）
 - (ア) 平成27年度入学者選抜の日程（案）について
 - (イ) 今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について
- エ 第4回協議会（平成25年11月21日）
 - (ア) 平成27年度入学者選抜の日程（案）について
 - (イ) 今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

(2) 専門部会について

専門部会は、第1回協議会において、アンケートの結果について、専門的な分析を付託された。

第1回及び第2回で、主にアンケート結果の分析を行い、第3回及び第4回では、その分析結果をもとに、現行制度の改善策を協議するとともに、仮に選抜を一本化した場合をシミュレーションすることで、更に詳細な検証を行った。

その結果を報告書にまとめ、第3回協議会に提出した。

(3) 主な意見

ア 検討の進め方について

- (ア) 概ね議論は尽くされているのではないか。協議会としては論点整理をした上で教育委員会に判断してもらう時期にきているのではないか。
- (イ) 制度を改善する時は、選抜制度の理念がどのように変わるのかを県民にわかりやすく説明することが必要である。
- (ウ) 仮に制度を大きく変えるとした場合は、パブリックコメントを実施するなど、県民から意見をうかがうことが必要である。
- (エ) 一本化している他県の状況について、都市部や地方の背景も参考にして検討してほしい。
- (オ) 選抜制度を変更するのであれば、十分な周知期間を取った方がよい。例えば、2年半といった期間が必要である。
- (カ) 仮に選抜制度に変更がある場合に、その周知期間を2年半取るのは、改革が遅いと考える。
- (キ) どのような一本化をするのかという議論をしてほしい。
- (ク) 無理やり制度を変えるのはおかしい。問題がなければ変える必要はない。
- (ケ) 2回の選抜制度を継続する上で、アンケート等の意見をきちんと分析して、議論を進めてほしい。
- (コ) 学校側が現行の選抜制度に反対している理由が理解できない。反対する理由が見えるようにしてほしい。
- (サ) 保護者や現場の教員、実際に事務を処理する人間の気持ちを十分考慮しながらの議論が必要である。
- (シ) 中学校・高等学校それぞれの入試業務がどのようなものであるのか、お互いに把握することは大事なことである。
- (ス) 他県の選抜制度変更の動向等を、適宜協議会に情報提供するとともに、時間をかけて検討し、数年先にはこうするという方向性を出してほしい。
- (セ) 公私が協調して学校教育の機会をどう保障するのか、そのためにどのような選抜をするのかを基本において議論すべきである。
- (ソ) 今後の制度の在り方を検討する上で、生徒にとってより良い選抜制度にすることを大事にした協議を忘れてはならない。
- (タ) 前期に引き続き後期を受けた生徒のどの位が合格したか等も含め、来年は全校で前期選抜不合格者の同一学校・学科への再受検率を調査してほしい。
- (チ) 現時点では、アンケート結果にある生徒・保護者の思いに軸足を置いて協議すべきである。
- (ツ) 事務局は、他県の選抜制度の変更の状況について、適宜協議会に情報提供してほしい。
- (テ) 本県ならではの多様性や努力した生徒を評価することを勘案し、今後の制度について議論してほしい。
- (ト) 選抜制度を検討する際には、県立学校改革推進プランとの関連も考慮すべきである。

イ アンケート結果について

- (ア) アンケートは、中学3年生徒・保護者、高校1年保護者に対しては悉皆調査ではないので、その意見については慎重に検討するべきである。
- (イ) アンケート調査は、毎年継続して実施するべきではないか。
- (ウ) アンケート結果について、課題を把握したうえで、それらを改善できる余地があるかについて分析するべきである。
- (エ) アンケート結果での生徒・保護者の意見を踏まえつつ、中学校長・高等学校長の意見も十分検討していくべきである。
- (オ) 現行の選抜制度で入学した生徒が卒業する時に、卒業生や高等学校にアンケートを実施し、その結果をもう一度検討すべきである。

ウ 選抜方法等の在り方について

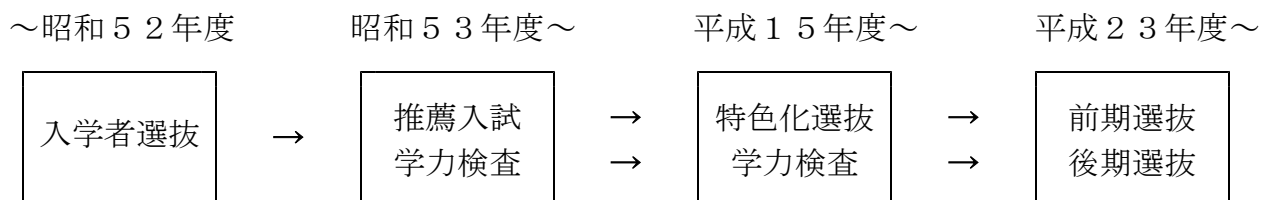
- (ア) 私立高校の受検を含めれば、公立高校の受検とあわせて複数回の選抜機会を保障していることになるので、1回の選抜で募集定員の全てについて入学許可候補者を決定する方がよい。
- (イ) 前期選抜にも学力検査が導入され、また、前期・後期という選抜の名称から、中学校の生徒・保護者は、同じ検査を2回に分けて実施していると捉えていることがある。
- (ウ) 細かい一つ一つの課題を浮き彫りにし、変えていくべきところは変えていく方向を出していくことが我々に求められている。
- (エ) 前後期とも同じ高校を受検できることで、救われる子どもが多いと思われる。
- (オ) 前後期において、高等学校は異なる方法で丁寧に受検生を選抜することができるので、2回の選抜がよい。
- (カ) 生徒・保護者にとっては、前期選抜で体調不良等により力を出せなくても、もう一度あらためて受検できるという安心感を持つことができるので、2回の選抜を行うことは必要であると考えます。
- (キ) 志願理由書を廃止したり入学確約書の在り方等を検討したりすることで、提出書類を簡素化する等の改善ができれば、学校現場の入試事務等の負担を軽減することができるので、現行の制度でよいのではないかと。
- (ク) 提出書類の在り方や選抜枠、テストの時間等、具体的な運用方法で改善できるものは早急に改善してほしい。
- (ケ) 前後期の日程調整を図ることにより、後期選抜に志願する生徒の指導に余裕を持たせることができるならば、現行の制度のままでよいのではないかと。
- (コ) 今の制度は定員のところに問題がある。
- (サ) 高校で受検業務をしていて、生徒も学校も大変なので一本化がいいと思っていたが、保護者や生徒はそう思っていないことがアンケートではっきりした。
- (シ) 郡部では、一本化がよいという意見が多い地域がある。学区内の高等学校数や交通事情等地域差を踏まえた検討をしていくことが必要である。
- (ス) 後期選抜は1日で実施しているため、第2次募集のように受け取られているので、2日間で実施すること等を意識して検討してほしい。
- (セ) 一本化を想定した検討では、生徒・保護者が現行制度において感じている安心感を持てるようにすることが必要である。
- (ソ) 日程等も含め、子どもたちに負担をかけないということが大前提にすべきである。

エ その他

(ア) 県教委は前期選抜・後期選抜それぞれの趣旨の違いを、また、高等学校は自校の特色を、更に周知徹底していくべきではないか。

(イ) 前期選抜と後期選抜の趣旨の違いについては、学校がPRの努力をすべきである。

(参考) 選抜制度の変遷について



※詳細は、別紙資料7-2「県立高等学校入学者選抜の変遷について」及び資料7-3「前期選抜・後期選抜への改善について」による。

県立高等学校入学者選抜の変遷について

<p>～昭和52年度</p> <p>・昭和42年度：学力検査を9教科から5教科に変更</p>	<p>○公立高等学校入学者選抜（2月下旬2日間） 第1日：国・理・社 第2日：英・数</p> <p>（昭和50年度～52年度：千葉・船橋・市川地域の全日制普通科高等学校について、総合選抜制（学校群制度）を実施）</p>
<p>昭和53年度～60年度</p> <p>・推薦入試の導入</p>	<p>○推薦入学による入学者選抜 （1月下旬1日：農業・水産・体育に関する学科） 推薦枠：農・水…募集定員の概ね15%以内 体…概ね30%以内</p> <p>○学力検査等による入学者選抜（3月上旬2日間5教科） 第1日：国・理・社 第2日：英・数</p>
<p>◇文部省通知：受験機会については、同じ高等学校においても定員の一部を留保して、入学者選抜を二回にわたって実施するなど、受験生に複数の機会を与える工夫を行うことが望ましい。（昭和59年7月20日）</p>	
<p>昭和61年度～平成8年度</p> <p>・推薦入試対象学科の拡大</p>	<p>○推薦入学による入学者選抜 （1月下旬1日：専門学科及び普通科の一部） 推薦枠：体…概ね40%以内 その他の専門学科及び普通科（4校実施） …概ね15%以内</p> <p>○学力検査等による入学者選抜（2月下旬2日間5教科） 第1日：国・理・社 第2日：英・数（+体育に関する学科：適性検査）</p>
<p>◇文部省通知：受験機会の複数化及び推薦入学の活用などにより、多段階にわたり入学者選抜が実施されるよう十分配慮すること。（平成5年2月22日）</p>	
<p>平成9年度～12年度</p> <p>・全ての学校・学科で推薦入試を実施</p>	<p>○推薦入学による入学者選抜 （1月下旬1日） 推薦枠：普通科5～30% 専門学科・総合学科5～40%</p> <p>○学力検査等による入学者選抜（2月下旬2日間） 第1日：国・理・社 第2日：数・英（+体育に関する学科：適性検査）</p>
<p>◇文部省通知：選抜方法の多様化、評価尺度の多元化の観点に立った入学者選抜の改善を一層進めていく必要がある。（平成9年11月22日）</p>	
<p>平成13年度～14年度</p> <p>・推薦枠の拡大</p> <p>・学力検査の日程の変更</p>	<p>○推薦入学による入学者選抜 （1月末日1日） 推薦枠：普通科5～40% 専門学科・総合学科5～50%</p> <p>○学力検査等による入学者選抜（2月下旬2日間） 第1日：5教科学力検査 第2日：面接等、学校ごとの検査</p>
<p>平成15年度～22年度</p> <p>・受験機会の複数化</p> <p>・高等学校の一層の特色化</p>	<p>○特色ある入学者選抜（2月上旬1日：全ての学校・学科） ※生徒の多様な能力・適性等を多面的に評価</p> <p>○学力検査等による入学者選抜（2月下旬2日間） 第1日：学力検査（5教科） 第2日：各学校ごとの検査</p>
<p>◇選抜制度の改善</p>	
<p>平成23年度～</p> <p>・特色ある入学者選抜の理念の継承</p> <p>・複数回の受験機会の保証</p>	<p>○前期選抜（2月中旬2日間） 第1日：学力検査（5教科） 第2日：各学校ごとの検査</p> <p>○後期選抜（2月下旬1日） 学力検査（5教科）及び学校が必要に応じて実施する検査</p>

前期選抜・後期選抜への改善について

1 改善の背景

- (1) 2月上旬に「特色ある入学者選抜」が実施され、それにともない私学の入試も1月に早まったため、中学校では1月のはじめから受検準備・手続きが本格的に始まり、落ち着いて授業に臨めない実状があり、また、2月中旬までに私学も含め中学校3年生の約7割の進路が決定していることにより、早期に進路決定した生徒がなかなか授業に集中できないという傾向があった。
- (2) 「特色ある入学者選抜」においては、多くの高等学校が、面接、作文、適性検査等を実施し、ペーパーテスト（学校独自問題）を実施する学校は半数以下であった。学校ごとの検査を実施することにより、生徒の優れた面を多角的に評価することができたが、勉強しなくても高校に入学できるのではないかとの考えも一部見受けられ、中学生の学力低下が懸念された。

2 改善の理念

- (1) 特色ある入学者選抜の理念の継承
（生徒の多様な能力・適性、意欲、努力の成果、活動経験等の優れた面を多角的に評価する）
- (2) 複数回の受検機会の保証

3 改善の結果

平成15年度から22年度まで	平成23年度から
◇特色ある入学者選抜	○前期選抜
・検査日 2月上旬（1日）	・検査日 2月中旬（2日間）
・選抜率 募集定員の 全学科で 10%～50%	・選抜率 募集定員の 普通科で 30%～60% 専門学科及び総合学科で 50%～80%
・検査内容 面接、作文、適性検査、学校 独自問題等から、1つ以上を 各学校が選択して実施	・検査内容 第1日 5教科学力検査（1教科50分） 第2日 面接、作文、適性検査、学校独自 問題等から、1つ以上を各学校が 選択して実施
・選抜方法 「各高等学校において実施した 検査の結果」、「調査書」等を資 料とし、各高等学校がその特色 に応じて総合的に判定する。	・選抜方法 「第1日の学力検査の成績」、「第 2日の各高等学校において実施し た検査の結果」、「調査書」等を 資料とし、各高等学校がその特色 に応じて総合的に判定する。
◇学力検査等による入学者選抜	○後期選抜
・検査日 2月下旬（2日間）	・検査日 2月下旬（1日）
・検査内容 第1日 5教科学力検査（1教科50分） 第2日 面接、作文、適性検査等から、 1つ以上を各学校が選択して実施	・検査内容 5教科学力検査（1教科40分） 及び各高等学校が必要に応じて 実施する検査（面接等）
・選抜方法 「第1日の学力検査の成績」、 「第2日の各高等学校において 実施した検査の結果」、「調査書」 等を資料とし、各高等学校が総合 的に判定する。	・選抜方法 「学力検査の成績」、「調査書」、 「各高等学校が必要に応じて実施 した検査の結果」等を資料とし、 各高等学校が総合的に判定する。